

世界一流の移動通信開発拠点を目指して



移動通信分野ではここ数年急激な勢いで伸びており、21世紀に向けて、マルチメディア化及びグローバル化を目指してさらに成長が期待されております。

このような将来をにらみ、松下通信が従来得意としていた端末開発に加えて、基地局システムを含めた移動通信の総合的な研究・技術開発を行う拠点として、松下通信YRP研究所を1998年8月に設立しました。現在では、網島事業所の各事業部、各地の研究開発部門から関連の開発者を一堂に集め、設立当初の2～3倍の体制で第3世代の端末・基地局の開発、第4世代の方式・要素開発研究を進めております。

第3世代方式では昨年までにIMT-2000の詳細仕様が決定され、また、電気通信技術審議会の一部答申がなされて、いよいよ2001年春の商用サービス開始に向けての機器開発が佳境に入っております。商用に向けては、端末では昨年までに開発したW-CDMA試作機よりも更なる小型・軽量化、高機能・高性能化を、基地局も同じく小型化、省電力化、大容量化、低価格化を図る必要があり、これらの課題を克服するため鋭意努力しております。

第4世代の標準化に関しては、IMT-2000の標準化を進めていたTG8/1の後継組織であるWP8Fにおいて、本年3月から検討が始まろうとしている段階であります。YRP研究所では将来を見越した方式開発、要素技術開発、標準化提案を活発に進めます。

松下通信は、移動通信の開発環境に恵まれたここYRPの地を次世代の移動通信の研究・開発拠点として、今後は携帯電話端末メーカーから脱皮し、基地局システムを含めた世界一流の移動通信のトータルサプライヤーを目指す所存であります。

松下通信工業(株) 移動通信システム開発センター/テレコム研究所 所長
横須賀リサーチパーク研究開発協議会企画グループ委員 本間 光一

横須賀リサーチパーク研究開発協議会コーナー

横須賀リサーチパーク研究開発協議会等が今後開催を予定している主なイベントは以下のとおりです。詳細は、YRPニュースやYRPホームページ等でご案内させていただきますが、講演会等については積極的にご参加下さいますようお願いいたします。

開催日	イベント内容
2月10日	平成11年度第3回幹事会
2月17日～19日	電子情報通信学会移動通信ワークショップ
2月18日	平成12年度ITS共同研究説明会
2月24日～25日	次世代端末キーデバイスシンポジウム
3月	関西地区YRP産学官連携セミナー(京都リサーチパーク等とも連携)
3月11日～12日	最先端の情報通信フェア2000
3月13日	電子情報通信学会Moumac研究会
3月23日～24日	ミリ波国際シンポジウム

協議会コーナーつづき

「第1回次世代移動通信システム アジア太平洋ワークショップ」の報告

1月24日 シンガポール、26日 マレーシア及び28日 タイにて「第1回次世代移動通信システム アジア太平洋ワークショップ」が開催されました。これは、昨年の研究開発協議会アジア太平洋地域・情報通信技術研究開発アクティビティ調査の結果、各国から次世代移動通信技術の情報交流に対する強い希望が出されたことに対応して行われたものです。開催の準備にあたっては郵政省国際協力課、現地の日本大使館、(財)国際通信経済研究所、会員企業の現地事務所等の協力を得ることができ感謝しております。

日本からの参加者は総勢11名(7団体)、現地参加者はシンガポールでは300名、マレーシアは130名、タイでは210名と予想以上の盛況であり、シンガポールとタイにおいては更に多くの申し込みがありました。全体予算との関係で参加者を現地側で絞った経緯がありました。



キーノートスピーカーは下記のとおりであり、総評として各国・各組織の次世代モバイル通信に対する期待、当ワークショップが時宜を得たものであったこと、第2回開催に対する期待やYRPに対する期待などが多数述べられました。また、各国において協力いただいた日本大使館の方々からのご意見からも、当ワークショップは大成功であったと評価できるものであります。

次回の開催にあたっては、今回の3ヶ国からの期待も大きいものの、一方では更に多くのアジア太平洋地域諸国との間で拡大していく必要があること、また、非公式ながらAPTの研修事業への協力を要請されていることなどから、関係各所との十分な調整が必要であるとともに、今後更に郵政省及び現地大使館などの協力もお願いしていくこととします。

- シンガポール：ナラヤン事務局次長 (APT)
Kan 所長 (Infocomm Development Authority of Singapore)
長谷統括サブリーダー (通信・放送機構)
- マレーシア：ナラヤン 事務局次長 (APT)
Dato ' Syed 取締役 (Telekom Malaysia Berhad)
水野主任研究官 (郵政省通信総合研究所)
- タイ：リー事務局次長 (APT)
Dr. Pairash 局長 (国立科学技術開発局)
大森センター長 (郵政省通信総合研究所)

事前参加申し込み始まる 「YRP次世代端末キーデバイスシンポジウム」

YRP研究開発協議会とYRP推進協会では、来る21世紀のマルチメディア社会のキーワードである「モバイル情報通信」の第一弾として登場が予定されるIMT-2000などの次世代情報端末にスポットを当て、それらを担う主要デバイスについて各分野の権威者から最新技術の講演、並びに各種デバイスを紹介する併設展示会を、**2月24日(木)～25日(金)**の両日に向けYRPホール及びエントランスホールにおいて開催する運びとなりました。

つきましては、事務局では事前参加申し込みを受け付けておりますので、多数の皆様のご参加をお待ちしております。

(参加費無料、予稿集：2000円、24日懇親会：3000円)

◎ 講演 基調講演、技術講演、11のセッション ◎ 併設展示会 出展企業17社(25ブース)



横須賀リサーチパーク推進協会コーナー

「最先端の情報通信フェア2000」の開催について

先月号でもお知らせしました「最先端の情報通信フェア2000」(3月11日(土)、12日(日))について、講演者、協賛企業の詳細が具体化してきましたのでご報告します。

◎ 講演者 (50音順)

NTT移動通信網(株)代表取締役会長	大星 公二氏
トヨタ自動車(株)専務取締役	三吉 暹氏
日経アドレ編集長	速水 由美氏
日本エリクソン(株) 代表取締役社長	モーガン・ベングツソン氏
日本シスコシステムズ(株)代表取締役社長	黒沢 保樹氏
日本ルーセントテクノロジー(株)ヴァイスプレジデント	栗田 修氏
富士通(株)常務取締役	森寺 章夫氏
松下通信工業(株)常務取締役	倉本 實氏
モトローラ(株)代表取締役社長	久留 勇氏
郵政省通信総合研究所所長	飯田 尚志氏
横須賀リサーチパーク推進協会会長	徳田 修造氏
横浜国立大学教授	河野 隆二氏
日本電気(株)専務取締役	杉山 峯夫氏(調整中)
ノキア・ジャパン(株)インフラストラクチャー本部長	ヨーコ・パイヴィネン氏(調整中)
ソニー(株)(検討中)	

◎ 協賛企業 (50音順)

アーム(株)、(株)アドバンテスト、
NTTアドバンステクノロジー(株)、
NTT移動通信網(株)、セイコーエプソン(株)、
ソニー(株)、ドコモエンジニアリング(株)、
トヨタ自動車(株)、日本エリクソン(株)、
日本電気(株)、日本シスコシステムズ(株)、
日本ルーセントテクノロジー(株)、
ノキア・ジャパン(株)、富士通(株)、
松下電器産業(株)／松下通信工業(株)、
モトローラ(株)、郵政省通信総合研究所
(その他、数社参画予定)

(株)横須賀テレコムリサーチパークコーナー

YRP賀詞交換会の模様



去る1月12日午後5時からローズテリアにおいてYRPへの進出企業有志約60名の参加をいただき「YRP賀詞交換会」が盛大に行われました。

当日は、YRP連絡会の代表である(株)横須賀テレコムリサーチパーク代表取締役専務 斎藤 實から年頭のあいさつに引き続き、NTT移動通信網(株)ワイヤレス研究所長の中嶋 信生氏から乾杯のご発声をいただき歓談に入りました。

YRPがオープンして2年経ち、参加者の皆様もそれぞれに顔見知りの方も多く、また、情報通信の研究開発と言う共通の話題に話の輪が会場のあちこちで広がっていました。

約1時間の歓談の終わりに、(株)オプトウエーブ研究所無線応用システム研究部長の結城 主央氏の本締めで幕を閉じました。ご参加いただいた皆様、また、開催に当たりご協力いただいたローズテリアのスタッフの皆様大変ありがとうございました。今後ともYRP連絡会の運営にご協力の程よろしく願いいたします。



早稲田大学 奥島総長YRPを視察



産学官の連携を模索している横須賀市の働きかけで、1月28日(金)に早稲田大学 奥島孝康 総長他5名の方々が(株)横須賀テレコムリサーチパークの社長を兼ねる澤田横須賀市長との会談の後、YRPセンター1番館、通信総合研究所、NTTドコモR&Dセンタの各施設を視察されました。

研究所紹介コーナー

このコーナーでは、YRP地区に進出されている研究機関を毎回1～2機関取り上げ紹介しています。今回は、株式会社ワイ・アール・ピー高機能移動体通信研究所を紹介します。

株式会社ワイ・アール・ピー高機能移動体通信研究所（略称 YRPAMCO）

当研究所は、業務用移動体通信システムの高効率伝送及び機能の高度化・多様化技術に関する研究開発を目的として、基盤技術研究促進センターと民間企業の共同出資によって平成10年1月に設立されました。平成15年12月までの6年間研究開発を行います。民間出資会社は、東芝、日立電子、松下通信工業、三菱電機、旭化成工業、沖電気工業、オプトウェーブ研究所、国際電気、日本電気、日本無線、日立製作所及び富士通の12社です。

周波数需要のひっ迫しているU/VHF帯業務用移動通信のチャネル容量の拡大、耐災害性に優れたネットワークの構築及び画像・データ通信が可能なマルチメディア対応システムの構築を目指し、図に示した分野の研究開発を進めています。職員数18名（常勤役員2名含む）のこじんまりした研究所で、研究企画室と第1及び第2の二つの研究室で構成されています。出資各社と郵政省通信総合研究所からの出向者が、出資各社の研究協力や大学との共同研究を織り交ぜながら研究を進めています。

最近の公衆移動通信の目覚ましい発展によって業務用移動通信とサービス内容が競合する分野が増え、この傾向は今後も続くと考えられます。しかし、業務用移動通信は、耐災害性に加えて回線接続、同報通信、輻輳対策などの面で機動的な通信が可能なることから、快適で安全な生活や経済活動を支える重要な社会基盤として、公衆用移動通信と調和して発展するものと思われれます。特に、電力、ガス、運輸、防災、警察などの公共、公益性の高い分野では、今まで以上に業務の中核と現場をつなぐ神経網として重要な役割を担うことになると考えられます。

機動性、信頼性及び経済性が高く、使い勝手の良い情報通信革命の流れに沿った新しい時代の業務用移動通信の確立を目指して、職員一同研究開発に力を注いでおります。



（本稿の紹介文は、(株)ワイ・アール・ピー高機能移動体通信研究所よりご提供頂いたものです。）

編集・発行 横須賀リサーチパーク推進協会

〒239-0847 横須賀市光の丘5 TEL:0468-40-4100 FAX:0468-40-4101

横須賀リサーチパーク研究開発協議会

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL:0468-47-5008 FAX:0468-47-5010

(株)横須賀テレコムリサーチパーク

〒239-0847 横須賀市光の丘3-4 TEL:0468-47-5000 FAX:0468-47-5010 <http://www.yrp.co.jp>